

成願寺

季報
89

平成 23 年 8 月 18 日
(2011 年)

目次	
「被災地からの報告①」小野寺義友……………	1
「被災地からの報告②」小野大龍……………	3
「中野たから幼稚園・未就園児クラブについて」……………	6
七月十一日行事報告……………	8
学術研究振興基金「小笹会」研究報告……………	10
山内短信……………	12

発行 多宝山成願寺
〒164-0012 東京都
中野区本町2-26-6
電話 03-3372-2711
制作 地人館

平成二十三年孟蘭盆会説教

被災地からの報告①

宮城県安養寺住職 小野寺義友

今日はようこそお詣りくださいました。こうして成願寺様のお盆にお邪魔して、今年で三十二度目の夏でございます。皆様のお顔を拝しますと例年と変わらぬように思います。しかし三月十一日、東日本大震災が発生いたしました。今日でちょうど四ヶ月。本日は「被災地からの報告」ということでお時間を



宮城県安養寺住職
小野寺義友老師

頂戴しましたので、お配りしたプリントに沿ってお話し申し上げたいと思います。

私が住職を勤めますお寺は宮城県栗原市というところ。被害の大きかった海辺の町、南三陸町から五十キロほど山に入って行った辺りで、震度は七強

◎参加者募集：本年秋季より「坂東観音札所巡拝を始めます」

全四回（三年）で三十三ヶ所を訪ねる予定です。

第一回日程 十一月九日（水）～十日（木）

九日：成願寺朝七時集合出発―一番杉本寺―二

番岩殿寺―三番安養院―峰本にて精進料理―四番長谷寺―飯山温泉元湯旅館泊

十日：六番長谷寺―八番星谷寺―七番光明寺―昼

食―五番勝福寺―成願寺夕五時帰着予定

会費 三万八千円

*日帰りの場合：九日のみ、十日のみの参加各二万円。

九日夕食まで参加の場合はプラス二万円。

（鎌倉からの帰路と飯山温泉までの交通費は各自負担）。



地震の被害でいまにも崩れそうな安養寺の門柱

状況でございます。

地震発生から三日後の十四日、ライフラインも寸断されて大混乱が続く中、石原東京都知事の「天罰」発言がございました。被災地ではこの言葉にみな深く傷つきました。本当に許せない思いがいたしました。

五日目の十六日に死者、行方不明者が合わせて一万〇九人と発表され、大変な被害状況がわかってきた。そして十九日になってようやく政府が自衛隊の派遣を決定し、十万六〇〇〇人の人員が被災地に入り行方不明者の搜索が本格化していった。地震発生から一週間以上経ってからのことでございます。

さらに三週間目の四月一日には沿岸地域の大搜索が行なわれ、その結果、死者一万二二五九人、不明

者一万五三一五人と発表されました。亡くなった方の多くが水死。そして六十五歳以上の方が多かったそうでございます。

三陸地方では、主なものだけ申しましても明治二十九年、昭和八年、同五十三年とマグニチュード七以上の地震と津波の被害に遭ってきたわけですが、今回はマグニチュード九。観測史上最大と確定されて、正に未曾有の大災害と言えます。

この国難にあたり全国からボランティアに来てくださった方々、学生さんが大勢みえましたが、五月の連休が明けると学校がはじまってぱたつといなくなってしまうました。大学によってはボランティア活動を単位とみなす措置をとったところもあつたようですが、ボランティアの継続性というのは今後も続く課題だと思います。

仮設住宅もなにかと話題になっておりまして、なんとか入ることができても二年の間に自立して出なくてはいけません。また避難所では食べ物なんかも配っていただいたわけですが、仮設に入ったらそうはいかない。避難所に戻ってきた人もいたそうで、建設場所の確保や仮設での孤独死などまだまだ問題は山積しているわけでございます。



↑南三陸町歌津馬場中山センターで行なわれた炊き出し支援の様子。
←前列左端が小野寺老師。後列左端が小野師。

地震発生から三ヶ月経た六月十一日、被害物故者の卒哭忌そつこくきの法要を栗原市一迫の広最寺様、このあとお話をする小野様が副住職を勤めておいでのお寺ですが、そちらで営ませていただきました。

卒哭忌と申しますのは百箇日のこと
で、「哭」は泣きさけぶという意味、故人を思つて泣き叫ぶことから卒業する頃という法要でございます。その時の様子は地元新聞にも取り上げられ紹介をしていただきました。

最後になりました

が、沿岸部に比べて被害の少なかった私たちがなにかできないか、そう思つております時に成願寺様よりご支援いただき、広最寺小野様を中心に南三陸町で炊き出しをさせていただいております。皆様義捐金として赤十字等にたくさんの募金をしてくださっているようですが、報道されておりますようになかなか被災地に届かない。そんななか成願寺様から直接浄財をいただきまして助かつております。

炊き出しに参りますと一度に百人前。いろいろメニューを考えますが、好きなものを食べていただきたいと思つて時にはケーキなども用意してまいります。そのときだけでもおいしいものを口にしてほつとももらいたい、そんなふうに思つていろいろでございます。

復興ははじまったばかりです。どうかこれからも東北に目を向けて見守つていただきたいと存じます。ありがとうございます。

合掌

被災地からの報告②

宮城県広最寺副住職 小野大龍

みなさま、こんにちは。少しお時間を頂戴しまして、

私が震災当日に目にしたこと、その後の様子をお話しさせていただきます。

私は三月十一日、仙台市内におりました。ぐらつと揺れたかと思うと目の前のドアや柱が左右に振れて、瓦がガラガラと音をたてながら落ち、電信柱もぐにやぐにやと揺れていました。一瞬で違う世界に來てしまったような、これはもうだめだなと感じました。

揺れが収まるとあわてて車に乗り込んで、避難場所を目指しました。すると今度は津波が来るというので急いでUターンをして車を走らせました。逃げても逃げてもさらに津波が來て、どうなるんだと思うところ、ちよつとしたスペースがあったんです。そこで車を止めた。車を降りますと、後ろから「逃



宮城県広最寺副住職
小野大龍師

げろー！」と大声で叫ぶ声が聞こえてきます。「津波が來ているから走れ！」。気がつくとも子どもを抱えて走るお母さんが隣にいて、私はその赤ちゃん連れの方と一緒に走りました。

高台に上つてなんとか津波から逃れることができたのですが、轟音とともにありとあらゆるものがおもちゃのように流されていく姿を目の当たりにしました。時間にすれば十分にも満たなかつたと思うのですが、辺り一帯は黒い水で沼のような状態。あちこちに助かつた方がいて車の上に乗つていたり、建物の屋上で放心状態にいる。

あのときのことを思いますと、今でも震える思いがいたします。

津波から逃れた後、多賀城市の自衛隊基地・多賀城駐屯地で避難生活を送りました。ただ、多賀城駐屯地にも大きい津波が襲つていて、敷地内は水も多、建物の一部も被害に遭つていました。

四日後にようやく水が引いてきて、震災の日、車を取り捨てたところまで歩いて行きました。車は幸運なことに無事でしたので、お寺のある栗原市まで帰ることができました。しかし、そちらでも電気も水道もなし。そういう状態で何日か過ごしたわけで

すが、震災後十日ぶりにガソリンを確保することができて、避難所の様子を見に参りました。ある避難所では三百体以上のご遺体が安置されている。その同じ場所で避難生活を送る人々。本当に疲れた様子で、かける言葉もない、ぎりぎりの状況でした。

三月末になりますと火葬ボランティアが始まりました。棺もなければ、喪服もない。霊柩車ではなくて、軽トラックにボンボンと斜めに積んであるような状態で、ご遺体が運ばれてくる。

ご遺体の多さを見て、私は心が折れそうになりました。亡くなった方への供養はもちろん大切、しかし僧侶として何か他にできることがないのか、そういう思いでとても悩みました。そして津波に遭ったときのことを思い出しました。

あのとき、だれかわからない方に自分は後ろから声をかけてもらったんだ。それで助かった。それで今こうして生きていられるんだ。

そういうことを思い出して、私は生きている人に力を貸したいと気持ちになりました。まずはインターネットを利用して多くの人々に呼びかけ、物資を集めました。届いた物資は津波被害の大きかった南三陸町志津川地区、気仙沼市本吉地区、同じく唐

桑地区、こういったところに届けさせていただきました。

そんななか、テレビで石原軍団や杉良太郎さんの炊き出しが話題になりました。避難所生活では食べることぐらいいしか楽しみがない。それも充分ではないわけです。私も炊き出しがしたいと考えておりましたところに、成願寺様から支援金を使っていたきたいというお話がありました。本当にありがたい思いで早速現地に赴き、いったい何が足りないのか、いま何を必要としているのかということ聞いて回りました。

南三陸町に歌津馬場という場所がございます。こちらは大規模な津波被害に遭ったうえに二週間も道路が寸断されて孤立状態になった集落で、救援物資等が届くのがかなり遅れた地域です。家を流された方も多く、命以外ほとんど全てを失った方が多い。そういった集落での炊き出しを成願寺様の支援金を利用させていただいて行なっているわけです。

焼き鳥、バーベキュー、小さい子ですとアイスを用意したり、みなさんに本当に喜ばれます。たいへんな被害に遭われた方々が、よい笑顔で接してくださいます。たくさん笑顔と感謝の涙をいただくことが

できる。そして「また顔を見せてね。私もがんばるから」。そういう言葉をいただきますと、被災された方々に逆に救われている、そういう気がしております。
最後に坂村真民さんの詩「鳥は飛ばねばならぬ」を紹介させていただきます。

鳥は飛ばねばならぬ
人は生きねばならぬ

怒濤の海を飛び行く鳥のように

混沌の世を生きねばならぬ

鳥は本能的に暗黒を突破すれば

光明の島に着くことを知っている

そのように人も一寸先は闇ではなく

光であることを知らねばならぬ

新しい年を迎えた日の朝

私に与えられた命題

鳥は飛ばねばならぬ

人は生きねばならぬ

被災地では、まだまだ先が見えない状態が続いております。ただ、私たち被害に遭っていない人間ががんばっていくことによって、一人でも多くの人に

一寸先は闇ではなく光であることを知ってもらいたい、そういう思いで取り組んでおります。

本日はありがとうございました。

合掌

— ◆ — ◆ — ◆ — ◆ — ◆ —

成願寺付属中野たから幼稚園

未就園児クラブ「みみちゃん」について

園長 佐々木雅子

中野たから幼稚園では入園前年のお子さんとお母様のために未就園児クラブを設けています。

ギャングエイジ、反抗期といわれる二歳児。日々の子育てには喜びと同時に、悩み・迷いも多いことでしょう。親子で一緒に色々な遊びを通して、お子さんの成長を考えたり、同年代のお子さんを持つ友達達の輪を広げ、親子の関係をよりよいものにするためにプログラムしています。

【生活の流れ】（基本）

一〇：〇〇 登園（ホール）

親子で自由遊び（この時に満足して遊べるようになると、その後の集団での活動にも気持ち向きやすくなります）

一〇・四〇 室内遊び

おはようの会(名前を呼ばれたらお返事)

パネルシアター、ゲーム

親子触れ合い遊び等、手洗い・うがい

おやつ(おなかの負担にならない少量)

紙芝居 帰りの会

一一・三〇 降園または園庭で自由遊び

一二・〇〇 全員片付けをして降園

数年前までは無料で運営していましたが、是非とも有料化したいと考えました。それはお母様方にもきちんと所属意識をもって参加していただきたいという願いからでした。月々の会費をいただくようになり変化がありました。登園時刻に間に合うように



お名前呼ばれたらハイ!



親子で触れ合い体験するとお家での係わりの参考になります。



子ども達がおやつの中に「ワンポイントアドバイス」などお話しします。

努力してくださり、欠席の場合はきちんとご連絡いただけるようになりました。決まった方が集まることでお子さんもその環境に慣れ、同じ空間に居ても嫌ではない(集団のスタートはここからです)、お友達という存在に気づくようになります。

お子さんが慣れてきてからは、おやつとその後のお楽しみの中に「子育てワンポイントアドバイス」や時には「子育ての悩み」を出し合い、グループでのお母様のつながりを高めることができるようになりました。

年齢による発達の姿やそのお子さんの特性を知り、お母様もお子さんもゆったりと楽しく過ごす知恵の引き出しを一つでも増やしていただける様に：中野たから幼稚園の施設と人材を地域の子育て支援に提供しているわけです。

「みみちゃん」の教員も経験豊富な素敵な先生方です。お子さんやお母様との出会いに、仏様にいただいたご縁を本当にありがたく感じております。

*詳細は園までお問い合わせください。

電話 〇三―三三七四―三六一一

七月十一日 行事報告

七月十一日(月)、例年のように盂蘭盆先祖まつりが営まれ、併せて先住内室小林克二十三回忌、鈴木格禅先生十三回忌報恩供養会が執り行なわれました。住職より挨拶が述べられましたので紹介します。

ご挨拶 住職小林貢人

お暑い中、早い時間から御来山お願いし申し訳ありません。

ただいま私の母二十三回忌にご焼香いただき、心より感謝申し上げます。これより当山坐禅会を長く指導して下さいました、鈴木格禅先生十三回忌供養会に入ります。本日二



読経をしながら堂内を巡る方丈様方。



法語を唱えられる山中老師。

つの法要の導師をお勤めいただきますのは、遠州浅羽(現袋井市)の松秀寺住職・山中鐵雄老師です。松秀寺様とのご縁は明治の終わり頃からです。遠州森町の大洞院秋野孝道師家の膝下に依った先住義堯大和尚(私の父)が、僧堂

第一先達の山中昌孝師・松秀寺先代様に出逢い、その仲間の集まり「孝道会」で交誼が続きました。昌孝師の御子息鐵雄様は世界大戦末期、私どものいた調布の寺に寄宿。正にアメリカ軍爆撃機B29昼夜横弾に脅かされる日々を共に過ごりました。戦後の食糧がない時代、私は松秀寺様にお邪魔しては白いお米にありついたものです。そうした日々から四十年、息子同士が鶴見の大本山總持寺で一緒に修行、三代それぞれ同じ屋根下で若き日を過ごすという、浅からぬ因縁を受けております。

また、鐵雄様は鈴木格禅先生と駒澤大学同期、大洞院や可睡斎での御交流も長く、今回の導師を進んで受けて下さいました。参列御寺院の多くは格禅先生の御薫陶に浴しており、私の母ともしばしば往來した方々、本日の二法要は意義深く、感銘しております。格禅先生も母も泉下にて喜んで呉れてるでしょう。皆様、ありがとうございました。合掌

慶祝 山中鐵雄老師は先ごろ曹洞宗宗門において赤紫恩衣の被着を認められ、そのおめでたい袈裟衣の神通しのお姿で導師をお勤めしてくださいました。

鈴木格禪先生十三回忌供養会 導師 山中鐵雄

拈香法語

ひろくけんさんぶつじやうのしん
広く研讃す仏道之真
さらばげんざうたい
更に眼藏に対して要津を捜る
えいへいたんでんしやうほう
永平單傳の正法を究め
しやうせいぐどうひりんぜつ
終生の求道比倫を絶す

うやうやおもんみ
恭しく惟れば旭増三十一世西福三十六世

こまざわたいがくめいよまうじや
駒澤大学名譽教授

たいほうかくせんたいおしやう
大峯格禪大和尚十三回忌之辰に相値う

さんそうどうちやうし
山僧堂頭老師之慈慮に依り

つうしこういつちやう
謹んで香一炷を熱き以て真意を増崇せんと要す
しやうとういんもときかんのとうこういかん
正当恁麼の時感応動向如何が指陳せん

うんげつちやうかうしざいあ
雲月潮風自在に在り

しんらうばんてんしんしめ
森羅万象天真を示す

小林克二十三回忌供養会 導師 山中鐵雄

拈香法語

にかいこしん
二十三回此の辰に逢う
おんようほうふつ
温容彷彿として追懐新なり
しんがんかつかい
心顔を活開すれば迷悟の外
ていしゆくしやうがいよくじんぜつ
貞淑の生涯欲塵を絶す

うやうやおもんみ
恭しく惟れば山門此の日

どつじやうしやうごん
道場を莊嚴し

こうげとうしやくとうかさかんしやうけんび
香華燈燭湯菓茶珍饈を献備し以て

じほういんしゆんしんしつていこほうに
慈寶院舜室貞克法尼

かいかついでんくやう
二十三回忌追善供養の為に回向す
しやうとういんもときかんのとうこういかん
正当恁麼の時感応動向如何が指陳せん

せいざんりゆうすいはうんとうご
青山流水白雲の處

いっぺんこうえんじやうおのす
一片の香煙情自から親し

「小笹会 海外調査・発表報告」

慶應義塾大学 法学研究科 博士課程 近藤重人

クウェートでの調査

(二〇一一年三月一日～二十七日)



湾岸・アラビア半島研究センター
(Center for Gulf and Arabian Peninsula Studies)



日本人留学生との懇親会。
筆者は2列左から10番目。

クウェート大学内の湾岸・アラビア半島研究センター (Center for Gulf and Arabian Peninsula Studies) という研究所で主に資料収集を行ないました。

特に、第一次石油危機に関する新聞記事や議会の議事録を収集することができました。

クウェート大学図書館では、やはり第一次石油危機関連の書籍を大量にコピーして参りました。私が二〇〇八年から二〇〇九年にかけて留学した時にはア

ラビア語力不足と時間不足から十分にこれらの資料を収集できなかったのですが、今回は十分に目的を達することができました。

またクウェート大学教授でクウェート外交が専門のアッシリー教授 (Abdul-Reda Al-Assiri) やアッシャーイジー教授 (Abdullah Al-Shayji) からは直接研究上のアドバイスを頂くことができ、大変実り多いものでした。

また、アル・カバス (Al-Qabas) という新聞社では、広報部長に一九七〇年代のクウェート情勢についてインタビューを実施しました。

日本が大震災に見舞われる中での調査でしたが、概して現地の研究はうまく進みました。また、クウェートでは行く先々で日本のことを心配してくれました。調査の傍ら、日本大使館にも挨拶し、ちょうどその時開催された日本留学生との懇親会にも飛び入りで参加させて頂きました。

イギリスの学会で発表

(同年六月二十四日～七月二日)

イギリスのエクセター大学で開催された、The 2011 Gulf Studies Conference (湾岸研究学会) で

研究発表をしました。この学会は年に一度ベルシャ湾岸地域を専攻する研究者が集まる国際学会です。

私は、

・ Kuwait's Diplomacy and the First Oil Crisis

という題名で発表し、第一次石油危機（一九七三年）当時にクウェートがアラブの石油戦略の形成過程においてどのような役割を演じていたかを論じました。

同じく小笹会奨学生の山田真樹夫さんも本学会で、

・ A 'China Model' for GCC Political Economy?

という題名で発表しました。彼が本学会で発表するのは二回目です、既に英文の学術雑誌にも論文を発表するなど、精力的に活動していました。

イギリスではそれ以外に、イギリス中東学会（BRISMES）、湾岸研究会議（Gulf Research Meeting）に参加し、どれも大変有意義なものでした。

この発表ではクウェートでの調査の成果を存分に活用致しました。

今後の研究

私はこのクウェートでの資料調査及びイギリスでの学会発表を糧に、今後はより広く「湾岸アラブ産油国とパレスチナ問題の関係」というテーマで博士課程での研究を進めて参りたく存じます。

アラブ民族は中東・北アフリカ全域に広がる一大民族ですが、二十以上の国家に分かれています。その国々が、パレスチナ問題という共通の関心事に対してどういふ対応を取るのか、という点を過去から現在に至る歴史を見る中で明らかにしたいと思っております。

そのため、直接アラブ人の先生に指導を受けたいと思い、本年秋季よりサウジアラビアへの一年間または二年間の留学も準備しております。

他ではなかなか支援して頂けないアジア・アフリカ地誌の研究に惜しみないご支援を下さる成願寺様には本当に感謝の念が堪えません。心より感謝申し上げます。

合掌



山内短信

◎秋彼岸中日法要 修証義奉誦会

九月二十三日（金・秋分の日）

十一時 受け付け始め 十三時 修証義奉誦

訃音 去る六月二十五日、

大道晃仙禪師・大本山總持寺前貫首が御自坊の釧路定光寺にて遷化されました。世寿九十五歳。

晃仙禪師は昭和十二年駒澤大学在学時、当成願寺に百日間寄留され長谷川孝善住職について立職（僧侶と認証される儀式）され、二十数年前私の母の戒名を付けて下されるなど、縁の深い方でした。

昭和二十四年夏、釧路まで旅した私に、先代英仙大和尚は「折角だから美幌峠など奥まで行っておいで」とお小遣いを下され、晃仙様が弟子屈川湯網走のお寺に紹介状を認めて下さいました。その字の秀麗さ、感心して見入ったのを昨日のように思い出します。晃仙禪師の手のような風韻満ちる俳画、爽やかさのある能筆は今後しばらくお目にかかれたいでしょう。六月三十日、本山貫首御就任時の首座大石隆元師と私は定光寺様に拝登、お礼と追慕の香を焚いて参りました。

合掌

『観音様の功德とともにII』（成願寺刊）百三十一ページ参照

◎成道会一泊坐禅会 十二月三日（土）夕〜翌朝

◎納めの観音・年末の会 十二月十八日（日）

午後二時よりご祈禱・説教・会食

説教 中野区天徳院住職 大藪正哉老師

◎学術研究振興基金「小笹会」へのお問い合わせ

小笹会趣旨：小笹会は佛教ならびにアジア、アフリカ地誌を中心とする学術研究振興助成と、勉学の志に燃える学徒の生活相談という二大目的を持つ。その対象も佛教徒を中心に、広く内外に門戸を開放する。

*応募要綱、願書をご希望の方は寺務所まで。

左記FAXへお問い合わせください。

FAX ○三三三三三三三三二二七四

申込受付 随時 審査発表 約五十日後

◎地元・東郷町会子ども会

八月六日（土）夜、東郷町会の子ども達が遊びにやってきました。境内を利用した肝だめしとミニ花火大会で、夏の夜を楽しみました。

